

2021年度 運営の視点

あきらめない と しなやかな

仕事とは『課題の連続』だといわれます。日々処理しなければならない課題、突発的に発生する課題、潜在化するものをさがす課題、新たなものを創造するための課題といったものです。これらのことが縦横に織りなして目の前に現れてくるのが現実の場面です。『小事に忠実なものは 大事にも忠実である』といわれます。日常のちょっとした事柄をも軽んじることなく誠実に向き合う姿勢は、大きな変革を創造することにも通じます。課題は『気づき』ことで明らかになります。『気づく』ことは、慎重になるということにもつながりますが、万全の対策を施した上で、決断する時は大胆に取り組んでいく基盤にもなるのです。且つある意味臆病であることも重要なことです。困難な課題に直面して立ち止まってしまふことがあります。解決の道筋が見えないことがあります。しかし、私たちの仕事は、向き合う人の人格と生命・生活・人生に関わることなのです。「あきらめない」姿勢が大切です。具体的な道筋や詳細な計画を詰められるだけ考えて行く責任が問われていると思います。これ位でいい「だろう」は禁物です。「だろう」運転ほど危険なことはありません。安心して進められる確信を得る最大限の努力を惜しむことなく突き詰めていく姿勢を持ちたいと思います。昨年度の実践報告会の内容を読ませていただき、日々の小さなことへの『気づき』の感性を持ち、困難な事例の前で、立ち往生しながらも逃げることなく「あきらめない」で、経験や知識をフル稼働させて向き合っている姿に教えられることが多くありました。これらの姿勢は法人の財産だと思えます。一人の痛みを解決することが全体社会の痛みを取り除く糸口となっていくのです。継承していく取り組みをしていきたいと思えます。これらの姿勢は、仕事のすべてに共通することでもあるのです。

又、「あきらめない」責任のある私たちの仕事は一人では出来ません。職員集団を軸にした組織として利用者の皆さん・地域の方々の生活や活動を支えています。協働で仕事を進めていくのが大きな特徴です。日々の実践を安心と笑顔につなげていく意味でも仲間との信頼関係が最も大切になります。

しかし、集団を構成する一人ひとりには個性があります。価値観や感じ方、理解の仕方等々が微妙に異なるのです。同じ事柄や言葉でも異なった受け止め方をします。一人ひとりの持ち味を生かしつつも共通の理解と姿勢で向き合わない利用される方々に戸惑いが生じてしまいますので相互のコミュニケーションが重要です。又、スムーズな業務遂行のためにも互いを理解しあうことが重要なことです。多少の違いがあっても一定の枠に収まっていれば、それなりに調和が保たれるのですが、集団枠の許容量を超えてしまうと不均衡が生じてしまいます。そして不穏な雰囲気が出てしまうのです。職場を去る大きな理由の一つに人間関係があります。どうしたら良好な関係を形成することが出来るのでしょうか。能の世界で「離見の見」という考え方があります。能を演じている自身の姿を観客席から見ているように見つめるということだそうです。これは自分を客観視するということでもあると思います。福祉の世界でいう自己覚知ということかもしれません。この姿勢は私たちの仕事の基本です。自らの価値観・倫理観・常識的な感覚さらには、話し方や態度や声のトーン・目配りの仕方、歩き方等々が向き合う人にどのようにみられているのかを客観視した上で、共感・受容・情緒的関与等が対人援助での基本姿勢とされているのです。職員との関係性もこれを基本とすることが必要ではないでしょうか？又、向き合うことが大切です。そして、お互いに言いたいことを言い合い、言われた方もそのことを受け止め、互いに『赦しあう』『しなやかな』関係こそが成長する職員集団を形成することにつながるのではないかと思います。互いの弱さをさらけ出し、互いの強みを生かしあう職員集団として一緒に成長できることを願っています。人間社会の永遠の課題なのかもしれません。簡単には出来ないでしょう。しかし、《あきらめない》&《しなやかな》姿勢が、法人の底力を強めていくと考えています。そのことは、人間社会の幸せを生み出す力にもつながるものだと思っています。